
未来から過去へ

Maurice

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

未来から過去へ

【Nコード】

N8317C

【作者名】

M a u r i c e

【あらすじ】

久々津啓太が体験するタイムスリップの日々。過ぎては戻る、過ぎては戻る・・・

第1話：職探し

「久々津！久々津はまだか？」

リーダー格の男が叫ぶ。

「まだ来てないみたいです。」

若い男達が返事をする。

ヤバイ！啓太は時計をセットしていたが、今日も見事に寝坊をしてしまった。

急いで朝食を軽く済ませ、着替える。

家を出るときに携帯電話の時間を確認した。

8時50分

集合場所へは9時までに行かなければならない。

家からは早くても30分はかかる。完全に遅刻だ。

出来る限り急いだが案の定付いた頃には9時を悠にオーバーしていた・・・

はあゝ はあゝ

息が荒い。

「すみません！遅れました。」

「もういいよ。」

「はい？」

「もう来なくていいから。」

リーダー格の責任者が呆れた顔で言った。

「いや・・・」

「もうクビだから。ク・ビ！」

すぐさま啓太は色々言ったが、時すでに遅し。聞く耳をもってくれなかった。

頭に血が上った啓太は去り際に叫んだ。

「ケツ！こんなとこ辞めてやるよ！」

唾を吐いて立ち去った。

クソッ！少し遅れたぐらいでクビにしゃがって。あの野郎。と言ったものの、これからどうしようか悩んでいた。

近くの公園で、コンビニで買ったおにぎりを食べ、朝食では満たされなかった腹を満たす。

どうすっかな。ひとまず求人誌でも見るか。

帰りにまたコンビニに寄り無料の求人誌を手にする。

カンカンカン

所々錆が目立つ階段を上る。築30年のアパートは年季が入ってい

る。

ガチャ

啓太の部屋は少々ボロくなっているが、ひとりで住むには十分な広さの空間がある。

小さいテレビ、二つ折りになっている万年床の布団、木のテーブル、小さい頃から使っている本棚。壁にはお気に入りのジョニー・デップのポスターが掛けてある。

「ジョニーはいつ見ても格好いいな。」

そんなことを呟きながら求人雑誌をパラパラと捲る。

ビルの清掃員募集 時給800円

清掃はしんどいな。

コンビニのレジ・品だし・清掃 時給750円

接客は苦手だ。

新聞配達（朝刊・夕刊） 1日4000円

お、結構いいな。でも早起きはキツイな・・・

って、何もできねえじゃん。こんなんで大丈夫か？

啓太はあれこれ言う自分に少し嫌気がさした。

ふと目を引く項目があった。

時空研究会 研究員募集 日給（8時間） 1万円

い、いちまん！？

マジかよ。こりゃおいしいな。

しかし時給研究会？なんじゃそりゃ？

今の俺にはどうこう言ってる場合じゃないか。
早速連絡先に電話した。

「あ、あの求人雑誌を見て電話したのですが。」

「分かりました。では面接の日時と時間を言いますので、メモの準備はよろしいですか？」

若い女の声がした。

「では来週の月曜日の14時に×××ビルの3階の時給研究会にお越しください。」

「はい、分かりました。失礼します。」

思ったより若い人がいるんだな。しかも女が。

今までは男が多い派遣会社にしたため、久しぶりの女の声にワクワクしていた。

さてと、暇だしパチンコでも行くか。陽気な気分で家を後にした。

これから啓太の生活が急変するとも知らずに・・・

第2話：装置

窓から眩しい光が差し込む。雀の鳴き声がする。

空は雲ひとつ無い快晴。先週末はどんよりした天気だっただけに、啓太は

朝から気分が爽快だった。起きて顔を洗い。朝食は買いだめしておいた、どんべえ。

14時から面接か。それまで何すっかな？

パチンコは・・・ 昨日行ったか。うゝん。

そうだ！金のかからない図書館でも行つて時間潰すか。

自転車に乗り、清しい風を受けながら漕ぎ始める。

数分後近くの図書館に着いた。図書館なんていつ以来だ？

久しぶりの図書館に少し興奮していた。地味でもなく派手でもない概観の図書館には

お年寄りの姿が目立つ。さて何を見るかな。特に見たい本はなかった。

少し歩き2階があるのを思い出し階段を上る。

そっぴや映画見れたんだっけ。映画でも見るか。

さらっと見渡すとさすがに最新作は無かったが、見たいものはあった。

少し古いアクション映画を見ることにした。

やべつ。映画を見終わると時計は12時前を指していた。

とりあえず近くで飯食わないと。昼は近くにあったチェーン店で牛丼を食べることにした。

ふうゝ 食った食った。

ひとまず家に帰り支度をする。

××ビルまでは自転車です数分。啓太のアパートは比較的街の中心部に近いため

時空研究会が入っているビルまで遠くは無かった。

鏡で髪型をチェックし家を後にした。

数分前に××ビルに到着した。

どこにでもある灰色に5階建ての建物は少々年季が入っていた。

コン、コン！

少し間を置いてドアが開いた。

「あの先日電話したのですが。」

20代くらいの若い女の人がでてきた。

この前の電話の主だろうか？

「では簡単な面接をしますのでこちらにかけてください。」

部屋は思ったより広く、来賓用のソファが置いてあり何やら怪しげな機械？

のようなものが置いてある。それ以外にこれといったものは見当たらなかった。

「では始めたいと思います。」

始めは名前、歳を聞かれ、なぜ時空研究会に興味を持ったか質問された。

「時空研究というのが気になったもので・・・研究と言いますと時空を超えとか、そういうわけではないですよね？」

即座に自分の言ったことは幼稚園児並だと気付き自分を恥じた。

時空を超えるとか、んなわけあるか！
自分に突っ込んだ。

女は微笑んだ。

しまった。馬鹿みたいなことを聞いてしまった。

「まさにその通りですよ。」

は？

「時空を超えるって聞きましたけど・・・嘘ですよね？」

「申し送れましたが、私は如月莢と言います。今日は第1人者の博士、樵が居ませんが

私ども2人で時空について研究しています。映画などでご存知かと思いますがタイムマシンは知っていますよね？」

如月は唐突にタイムマシンというフレーズを口にした。

「タイムマシンなら知ってますけど。」

タイムマシン？そんなのは幻想の世界で世の中にあるわけねえだろ。いい大人が何言ってるんだか。

「私どもはタイムマシンの研究を長年続けてきました。非現実的かと思いますが、研究に研究を重ねあと一步のところまでできています。」

だが、冗談を言ってるようには見えない。

「現在、大詰めを向かっており手が離せないことが多々ありますので、身の回りの簡単な仕事をしてくれる方をこの都度募集することにしたのです。」

「はあ。」

「簡単に言いますと、昼食の準備や道具を運んでもらうようなことです。」

ふん。楽そうじゃないか。

タイムマシンというとき空を超えて未来やら過去へ行ける。まさかそれがここにあるとはねえ。疑り深い。

それを察知したのか如月がニヤリと笑った。

「信じられない、といった表情をしていますね。それもそうですね。タイムマシンは今までは映画の中での話でしたので。」

何やら自身ありげだ。

如月は続けた。

「それでは実際に機械をみてもらいましょうか。」

神妙に語りだした・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8317c/>

未来から過去へ

2011年1月13日06時11分発行